

第1回国際地学オリンピックでの試験実施状況視察報告

A report of the 1st International Earth Science Olympiad - The results of inspection for examinations -

根本 泰雄 [1]; 高野 洋雄 [2]; 杵島 正洋 [3]

Hiroo Nemoto[1]; Nadao Kohno[2]; Masahiro Kishima[3]

[1] 桜美林大自然科学; [2] 気象庁・海洋気象情報室; [3] 慶應高校

[1] J.F.Oberlin Univ.; [2] Office of Marine Prediction, JMA; [3] Keio High School

<http://www2.obirin.ac.jp/~nemo/>

第1回国際地学オリンピックが2007年10月7日から9日間の日程で韓国の大邱市および寧超郡にて開催された。初日の催しは歓迎会だけであったが、初日に到着した全参加者が参加した。二日目の午前中は、審判団を除く引率教員等も含めた全参加者が参加生徒の自己紹介セッションに参加した。午後は大学の研究室訪問、博物館訪問、古刹、山岳地形の見学などを行った。三日目は、二日目と同様に審判団を除いた全参加者が参加して製鉄所などの見学を行った。二日目、三日目の移動は1台の大型バスが使用されたことから、大人も子どもも交えて国際交流が終日行われた。四日目が試験の本番日であった。午前中2時間、地質、プレートテクトニクス、気象、惑星など全8問による筆記試験が一室で一斉に行われた。午後は実技試験であり、こちらは生徒が一人一人別々のブースに陣取り、偏光顕微鏡を用いた観察、天気図の読図、望遠鏡の操作などの試験を受けていた。

問題の難易度は、難問奇問は見当たらず、日本の高等学校「地学」の内容と比較しても妥当であると感じた。恐らく、日本の生徒が参加していたなら、好成绩グループに何名かは入ったことと思われる。

本講演では、参加者の顔ぶれなども含め、具体的な試験内容などより詳細に報告する。